広報たかなべ

2010.11.19 NO.367

・第10回高鍋城灯籠まつり
・シリーズ　高鍋を襲った口蹄疫③
・シリーズ　子どもがにぎわうまちづくり④
・平成21年度 高鍋町決算
・おいしい焼酎は安心安全な地元産原料で！
・町内小中学校の教育環境整備について
・地デジ放送局（高鍋中継局）が開局します
・姉妹都市交流
・まちの話題
・わが町の宝物

第十回 高鍋城灯籠まつり

～高鍋藩の名君 秋月種茂公の教え（人の倫）を育む心に明かりを灯す～

平成二十二年十月九日～十日

舞鶴公園とその周辺

①②竹切り出し作業：約３５０本の竹を山から切り出しました
③④竹灯籠製作：決まった長さに切り３本１組に縛りました
⑤舞鶴公園中段広場から上がる道に約千基の竹灯籠を設置：
　夜は見事な天の川へ変身しました
⑥紙灯籠製作：この枠に子どもたちの絵が飾られました
⑦灯籠まつり実行委員会会議　　⑧駐車場用地草刈り
⑨会場内清掃作業：まつり前後に実施しました

１０回目を迎えた今回のまつりは、９日の雨により町民総踊りと高鍋農業高校グラウンドへの灯籠設置が中止となりましたが、２日間で約５万６千人という多くの人出で賑わいました。

このまつりは、毎年多くのボランティアの皆さんのご協力をいただきながら、住民参加型の盛大なまつりへと確実に発展を続けている、と感じることができました。

今回は、口蹄疫で被害にあった家畜の鎮魂も目的の１つにあり、創作灯籠などさまざまな場面でその取り組みが見られました。中でも「高鍋城ともしびアート展」は、京都造形芸術大学の卒業生など全国の皆さんが工芸によって高鍋を盛り上げようと企画・運営をしていただき、関係者が県内外から多く来町されました。

また姉妹都市の朝倉市・串間市・米沢市をはじめ、町内外から多くのご協力をいただきました。

心から感謝いたします。

２年前に実施したデザイン会議後、「なぜまつりをやるのか」という部分で意識の統一感が生まれ、スムーズな運営ができるようになったことを感じます。また今回は、口蹄疫で被害を受けた家畜の鎮魂という機能を果たすことができました。

今後は「城がある」というこの小さな町の個性を生かし、さらに町民一体となったまつりを目指します。

第１０回高鍋城灯籠まつり実行委員会　大会会長　黒木 敏之

高鍋町出身の歌手今井美樹さんらが歌う「太陽のメロディ」の大合唱。防災無線で町内にこの歌が流れ、町民皆で家畜の鎮魂を願いました

シリーズ　高鍋を襲った口蹄疫

負けるな高鍋 ～心ひとつに～③

口蹄疫による家畜殺処分頭数の９割を占めた東児湯５町。どの町も、畜産業はもちろんすべての産業で大きな影響を受け、まさに「どん底」を経験しました。

しかし、やっと待ちに待ったこの日を迎えました。

１１月１日。

口蹄疫被害により家畜がゼロとなっていた東児湯５町で畜産経営が再開され、復興に向けた動きが本格化しはじめたのです。

高鍋町においては、この動きを支援するため、独自の補助金交付事業等を決め、積極的な復興支援に取り組んでいます。

今回は、県における終息宣言後の動きを写真と共に報告します。

高鍋町の畜産農家 経営再開までの動き

８／２７　宮崎県による口蹄疫終息宣言
８／２８　がんばろうみやざき　復興イベント（写真①）
８／３１　県立農業大学校や県立高鍋農業高校への観察牛導入
９／１７　町内の患畜農家へ県の観察牛の貸し付け開始
９／３０　児湯地域家畜市場での子牛セリ市の再開（写真②）
１０／７～　町の観察牛導入（写真③）
（１頭当たり３０万円の町補助：１０経営体）
１０／２２　畜魂慰霊祭
１０／２２　口蹄疫経過報告・復興対策事業事業説明会（写真④）
１１／１　経営再開

①東九州自動車道開通記念イベントとして開催。外では焼き肉ふるまいも実施
②約半年ぶりの実施。西都・西米良地区の子牛５０５頭が活気あふれる中で競り落とされた
③観察牛としての検査を無事終えるとそのまま畜産農家への導入牛となる
④畜魂慰霊祭後に実施。「家畜疾病のない地域を目指す」「宮崎ブランドの回復」「自衛防疫推進体制の確立」を目的とした事業についての説明を町が行った

①

②

③

④

畜魂慰霊祭

十月二十二日、高鍋町中尾の埋却地で、畜産農家や関係者など約百五十人の参加のもと畜魂慰霊祭が行われました。

畜魂碑の前で、神事、参加者による献花があり、皆で家畜の冥福を祈りました。

想像を絶する状況の中、殺処分・埋却が行われたこの地。こんもりと盛られた土の上には、何もなかったかのように草が生え、当時の状況を思い出すとうそのように静かな光景でした。遠くを眺めると畜産農家の方が植えたのでしょう。コスモスが風にゆれていました。

高鍋町へ県内外から多くの善意をいただいています

「高鍋町口蹄疫対策義援金」

※振り込みによる寄付は、通帳の標記のまま掲載（敬称略・順不同）。
（九月一日～十月三十一日）

【個人】
▽吉川武男・昌子▽情野文男▽寺本孝▽山岡みゆき▽朝田淑彦▽花田悦孝▽ワタナベカナコ▽堀江ヤエコ▽松田栄▽江原信昭▽イトウイサム▽キクチアヤコ

【団体】
▽鈴鹿自由丘簡易郵便局▽高鍋町視覚障害者福祉会▽天地人▽米澤藩古式砲術保存会▽デオデオ高鍋店▽㈱村山石油▽朝倉市農業委員会▽ガク）ヤマサキガクエン▽アサクラシアキヅキザイサ

「口蹄疫寄付金」

（九月一日～十月三十一日）
（敬称略・順不同）

▽秋月藩砲術林流抱え大筒保存会▽高鍋町地域婦人連絡協議会

「ふるさと納税：口蹄疫対策支援」

（九月一日～十月三十一日）
（敬称略・順不同）

▽遠藤晃司▽熊本裕美子

※義援金の受け付けは、平成二十三年三月三十一日まで行います。寄付金控除など詳しくは、高鍋町ホームページに掲載しております。

◆お問い合わせ◆
政策推進課　財政経営係
（TEL：２６－２０１８）

引き続き高鍋町口蹄疫対策義援金へのご支援をお願いします

【現金持参】高鍋町役場政策推進課（２階）で受け付け
【口座振込】
①高鍋信用金庫　本店　（普）１３５４６１５
②宮崎銀行　高鍋支店　（普）　１１７９６５
口座名義　「高鍋町家畜防疫対策本部（たかなべちょうかちくぼうえきたいさくほんぶ）　対策本部長（たいさくほんぶちょう）　高鍋町長（たかなべちょうちょう）　小澤浩一（おざわこういち）」
③ゆうちょ銀行
・０１７３０－６－１４８６５７（ゆうちょ銀行郵便局から振り込む場合）
・一七九店　当座　０１４８６５７（他金融機関から振り込む場合）
口座名義　「高鍋町家畜防疫対策本部（たかなべちょうかちくぼうえきたいさくほんぶ）」

義援金	**３４，４２４，５８７**	**円**
	６０４	**件**
口蹄疫寄付金	**８，４６７，４８４**	**円**
	２９	**件**
ふるさと納税（口蹄疫対策支援）		
	１，０８５，０００	**円**
	２５	**件**

※県内外からの多くの皆さんにご支援をいただいていますことに、心からお礼を申し上げます。上記額はすべて１０月３１日現在総額です。

未来ある高校生へエール

「牛の形も血統も抜群！ビカー」と話す佐藤さん（中央）

高鍋町の姉妹都市山形県米沢市にある㈱米澤佐藤畜産から県立高鍋農業高校へ繁殖用雌牛が寄贈されることになり、１１月２日、贈呈式が行われました。

この牛は９月３０日に再開された児湯地域家畜市場での子牛セリ市で最高値（２５９万９８００円）を付けています。

佐藤秀彌社長は「高鍋藩出身の上杉鷹山公がかつて貧困だった米沢藩を救ってくれたことへの恩返し、また、児湯には５年前から子牛の買い付けでお世話になっているので、指導力が素晴らしく牛を大事にしてくれる高鍋農業高校への復興応援のために贈りました」と話しました。畜産科肉用牛班班長の谷之木輝喜くんは「苦痛な日々を過ごしましたが、この牛を宝として失った家畜の分まで精いっぱい育てます」と話しました。

この牛の今後の活躍に期待がふくらみます。

畜産再生への決意

口蹄疫発生前に約１５００頭の牛を飼育していた南牛牧の長谷部将一さん。お父さんの康夫さんや家族と昼夜休日を問わずに畜産に携わっていました。しかし発症・全頭殺処分により生活は一変。誰にも会いたくない…などのうつ症状が出たそうです。

長谷部さんは「あの時は本当に辛かったですね。また、子どものことも心配でした。でも学校をはじめ、周囲の優しさに助けられました。そんな中、復興を目指す仲間の存在を確認でき、県や町の観察牛が入ったときは本当に元気が出ました。牛がいると気持ちが違います。今後は、防疫に力を入れながら再生に向け頑張ります」と観察牛を優しい目で眺めながら力強く話しました。

今後は畑作用「クリーンたい肥」の活用促進にも力を入れていきたいそうです。

畜魂慰霊祭が終わり、参加者が会場を離れ始めたとき、１組のご夫婦が会場横の埋却地奥へと歩いて行きました。ご主人の手には焼酎、奥さんの手にはお花が握られており、周りを確認している様子でした。

飼育していた牛の埋却地付近に来た２人は、そっと花を手向け、焼酎を捧げました。

落ち着いた様子でしたが、このご夫婦も家族同様に育ててきた牛の殺処分にさぞ心を痛められたのでしょう…

２人の背中を見ていると「悔しさ」「虚しさ」「寂しさ」などどこに向けたらいいか分からない思いに耐えているようにも思えました。

もう二度と、このようなことが起こらないことを願います。

シリーズ　子どもがにぎわうまちづくり④

食は「いのち」へつながる
「食のちから」を子どもに伝えよう

高鍋町では、平成二十一年に食育推進計画を策定し、「子どもの食」をテーマにした食育事業に積極的に取り組んでいます。
今回は、保育園や学校などの取り組みを紹介しながら「食」について考えます。

「食育」とは

平成十七年に制定された食育基本法を受け、高鍋町では平成二十一年に「食育推進計画」を策定しています。

これらの中で「食育」とは「食は生きる上での基本であって、知育、徳育および体育の基礎となるもの。さまざまな経験を通じて食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること」としています。

「食育」という言葉がなぜ生まれたのか

ひと昔前まで、どの家庭でも今で言う「食育」がごく普通に行われていました。

朝はごはんと味噌汁、昼は弁当、夜はその季節ごとの旬の野菜や魚・肉を使った料理。お母さんが作ったこれらの料理を家族で食卓を囲み食べることで、子どもたちは自然と食について学び、親となってからは自分が親にしてもらったように子供に愛情をかけていたものでした。

しかし、経済成長に伴う社会情勢の変化により、子どもを取り巻く食環境は大きく変わりました。親が食事を作らなくても、スーパーにはパックに入った調理済みの料理が並び、コンビニに行けば二十四時間いつでも食品が買えるなど、次第に「食」は手をかけなくても手に入るものになってしまったのです。

確かに、この便利さは働く者にとっては本当にありがたいものです。お腹をすかせ親の帰りを待っている子どものことを考えると、一刻も早く食事を食べさせたいと思うのは親として当然です。しかし、発達段階にある子どもたちの食事が、添加物を大量に使用した調理済み食品ばかり…という生活状況だったらどうなのでしょうか。

現在、このような生活状況に起因したさまざまな問題が表面化してきています。

偏った食事や食品添加物による体への悪影響はもちろん、心の発達や学習成績にも大きな関係があったのです。

このような状況の中で生まれた言葉が「食育」でした。

名　称：惣菜パン
【原材料名】小麦粉、ウインナー、タマゴサラダ、砂糖、卵、ショートニング、乳等を主要原料とする食品、パン酵母、ぶどう糖、食塩、ドライパセリ、酢酸Ｎａ、イーストフード、ビタミンＣ、調味料（アミノ酸等）、リン酸塩（Ｎａ）、保存料（ソルビン酸）、酸化防止剤（ＶＣ）、カゼインＮａ、発色剤（亜硝酸Ｎａ）、糊料（加工デンプン、増粘多糖類、アルギン酸Ｎａ）、グリシン、ｐＨ調整剤、カロチノイド色素、（原材料の一部に豚、鶏、大豆、ゼラチンを含む）

食品添加物がずらりと並ぶ惣菜パンの表示

いのちの循環

町立わかば保育園では、以前から旬の材料や無添加調味料の使用はもちろん、おやつはほとんど手作りという「食」へのこだわりを持った保育をしています。

また数年前からは「いのちの循環…食べることは生きること」を掲げた取り組みを行っています。『ダンボールコンポスト等による生ごみのたい肥化→それを使用して野菜を育てる→収穫した野菜を食べる→野菜くずや食べ残しの再たい肥化』のこの一連の流れを園で体験させることに加え、魚や肉を食べることは動物の命をいただいていることも教えます。この事実を学んだ年長組の清水優花ちゃんは「私が食べたものが、自分の骨や血や肉になることが分かりました。今からはもっと感謝して食べます」と少し驚きながらも納得した様子で話しました。

タイがさばかれる様子に興味津々の子どもたち

「栄養教諭」の存在

高鍋町には、栄養教諭（生目英子教諭）が一人配置され、食育に関する授業を行っています。

九月から十月にかけて、西中学校全クラスの授業を行った生目教諭。成長段階に応じた授業を一クラスごとに丁寧に行いました。

受験生である三年生には、「受験期の生活習慣を見直そう」というテーマで、食と睡眠が学力アップの大きなカギであることを説明しました。

三年三組の那須佳織さんは「夜更かしをすると脳の働きが悪くなって成績が落ちると聞き、驚きました。自分の生活習慣を見直していこうと思います」と感想を書いていました。

特別支援学級では「おやつの取り方」をテーマにした授業でした。生徒の一人は「おやつの食べ過ぎは病気になり

やすいので、今後は食べる内容と量を考えたいと思います」と話しました。

これらの授業を行った生目教諭は「体力も知力も心の健康も、みんな食べ物が基本です。まして、成長が著しい小中学生の時期に栄養バランスの整った食事を摂ることは本当に大事です。家庭では、親の責任として『考えた食事（料理）』を作ってあげたいですね。このことにより家族内でのコミュニケーションが広がり、心豊かになることはもちろん、学習成績の良い知的な子どもが育ちます」と話しました。

栄養教諭による授業は、子どもの「育ち」にとってますます重要なカギとなるのではないでしょうか。

自分で作ったお弁当はおいしい！

東小学校では、自分でお弁当を作る取り組み「お弁当の日」を四年前から実施しています。この取り組みについては、当紙平成二十二年一月号で紹介していますが、その意義はますます大きくなっているようです。

高鍋町教育委員会では、栄養教諭の協力を得て毎年夏休みに小中学生を対象とした「夏休み料理教室」を実施しています。

今年参加した西小学校五年の是澤彩音さんは「やけどをしそうになったけど楽しかったです。お母さんや家の人に何か作ってあげたいです」と感想を話しました。

子どもにとって、自分で材料を切り、火を使って調理するという経験は、大人が考える以上に大きな意味がありそうです。

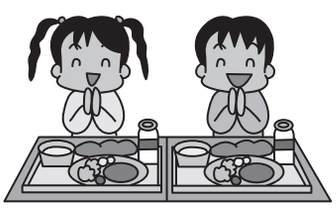
“いのち”に感謝！“健康”に感謝！「食べること」は「生きること」

これは、「食」や「環境」についての情報発信を行うグループ「フードランナー」のスローガンです。

「フードランナー」とは高鍋町職員や元職員で構成するボランティアグループで、町の食育推進計画に沿った事業の推進のため、各種イベントへの参加・協力や勉強会を行っています。

最近では、先月行われた子育て応援フェスティバルに参加しました。この日は、おやつの試食コーナーを設け、レシピの提供を行いました。

代表の本部比呂絵管理栄養士は「食事は空腹を満たすのはもちろん、心を満たす機能もあります。食とは奥が深いです。地道な活動ですが、スローガンの意味を町民の皆さんに伝えられるよう、活動を続けていきたいですね」と話しました。



「食のちから」

皆さんが小学生だった頃、四時間目の授業中に漂ってくる匂いにワクワクしたのを覚えていませんか。

『今日の給食は何だろう？この匂いは〇〇かな？お腹すいたなあ』

『あの匂いは〇〇の匂いだったんだ』

このごく普通の経験は、食への関心を持つことの第一歩であり、こどもにぜひ経験させたい「食育」の一つです。

高鍋町では、東西小学校とも給食は自校方式です。給食調理員が学校内にある給食室で作るので、子どもたちはできたての給食が食べられます。

また、子どもたちは給食調理員の顔を知っていて、「おばちゃん、今日の給食おいしかったよ、ありがとう」「良かった。明日もおいしいのを作るからね」という微笑ましい会話もあるようです。

西小給食室

私たちの家庭でも同じことが言えます。

家の台所から美味しそうな匂いがしてきたら、「お母さん、今日のご飯は何？」と子どもは尋ねます。きっとワクワクしているはずです。お母さんから聞くメニューが何であれ、それをきっかけに、友達のことや勉強のことなど会話が広がっていくのではないでしょうか。「食」は家族をつなげるそんな力も持っています。

家庭・学校・地域の連携を目指して

高鍋町は今後も「食は『いのち』へつながる」ことを念頭に、保育園や学校をはじめとした食育の推進を図ります。

そして、地域の皆さんとも協力しながら子どもたちの生活の核である家庭へ向け、さまざまな取り組みを通じて積極的に食情報を発信します。

「食のちから」を子どもたちに伝えることは、生きる力を身につけさせる重要なポイントであり、大人の基本的な役割なのです。

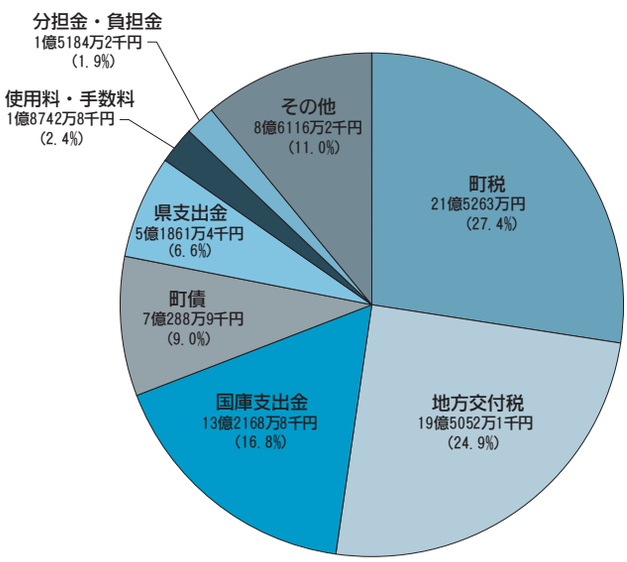
★平成21年度 高鍋町決算状況を報告します

高鍋町では、少子高齢化社会の到来に伴う社会保障経費の増加や、ピークを過ぎたとはいえ、依然として高い水準で推移している公債費等が財政の硬直化を招いています。一方で、国の景気対策により、国庫補助金や地方交付税が増額とはなったものの、国が多額の国債を発行している現状を鑑みると、引き続き予断を許さない状況にあるため、これからも引き続き職員一丸となって徹底した歳入の確保、歳出の削減に取り組んでいく必要があります。

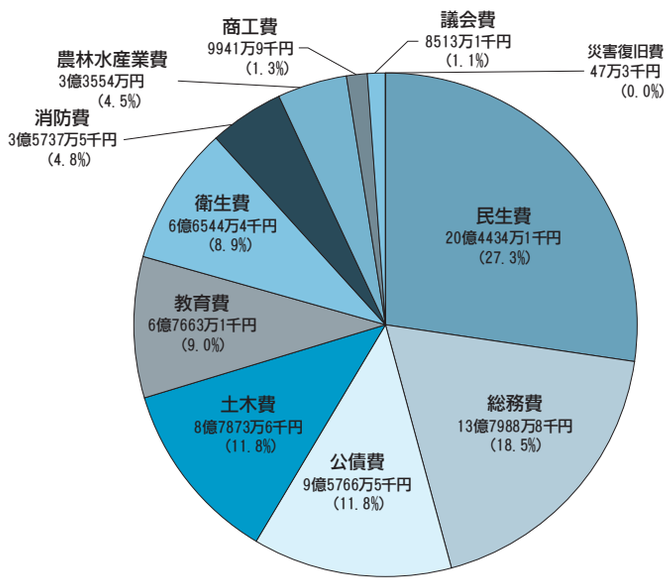
そのような中、活力あるまちづくりの主役は町民一人ひとりであることを念頭に置き、安心で安全な生活環境の整備、力強い産業の育成、未来の担い手である子どもたちが元気ですくすくと育つ教育・医療環境の整備に努めました。

平成21年度一般会計の決算額は、歳入総額78億4，677万4千円、歳出総額74億8，064万3千円となりました。

歳　入



歳　出



	区　分	歳　入	歳　出
特別会計	国民健康保険	29億2,572万円	26億2,217万円
	老人保健	1,731万円	1,731万円
	後期高齢者医療	3億8,589万円	3億8,452万円
	下水道事業	4億1,240万円	4億　256万円
	介護認定審査会	1,139万円	1,028万円
	介護保険	13億　556万円	12億　163万円
	高鍋都市計画畑田土地区画整理事業精算金	304万円	304万円
	一ツ瀬川飲雑用水管理事業	2,263万円	1,317万円

	区　分	歳　入	歳　出
水道事業	収益的収支	4億2,850万円	4億2,338万円
	資本的収支	1億7,347万円	3億　885万円

公債費	地方債残高（平成21年度末現在）	71億5,160万円

★財政健全化法に基づく高鍋町の「健全化判断比率等」について公表します

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」により、地方公共団体は、毎年度4つの健全化判断比率（実質赤字比率・連結実質赤字比率・実質公債費比率・将来負担比率）および資金不足比率を算定し、議会への報告、公表することが義務付けられています。

これらの指標が悪化し、早期健全化基準、財政再生基準を上回ると、財政的に危険な水準にあると判断され、議会の議決を経て財政の健全化もしくは再生のための計画等を策定し、外部監査を求めることなどが義務付けられています。

■高鍋町の算定結果は？

平成21年度決算に基づき、算定した健全化判断比率および資金不足比率は、いずれの指標も早期健全化基準、経営健全化基準を下回る結果となりました。

1．高鍋町の健全化判断比率

指　　標	比　　率	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	－	１５．０％	２０．０％
連結実質赤字比率	－	２０．０％	４０．０％
実質公債費比率	１８.９％	２５．０％	３５．０％
将来負担比率	１１７.９％	３５０．０％	

※実質赤字額、連結実質赤字額がないため「－（該当なし）」で表示しています。

2．高鍋町の公営企業の資金不足比率

公営企業会計の名称	比　　率	経営健全化基準
水道事業特別会計	－	２０．０％
下水道事業特別会計	－	

※いずれの会計も資金不足がないため「－（該当なし）」で表示しています。

「ふるさと納税」についてのお知らせ

「ふるさと納税」とは、ふるさとへの「応援したい」「元気になってもらいたい」という気持ちを「寄付」という形にしたものです。

高鍋町では、「歴史と文化が香るふるさとづくり」「子どもたちの笑顔あふれるふるさとづくり」「自然環境を守るふるさとづくり」「心安らかに暮らせるふるさとづくり」「産業が輝くふるさとづくり」の５つのテーマに加え、今年は「口蹄疫対策支援」のテーマを設定しています。

「ふるさと納税」は随時受け付けていますので、高鍋町にご縁のある方、高鍋町が大好きな方など、皆さまからの応援をお待ちしています！

平成２１年４月から現在までにつぎの方々から寄付をいただきました。（口蹄疫対策支援のテーマで寄付をいただいた方は、5ページに掲載しています）

皆様のご趣意を体して、有効かつ適切に活用してまいります。ありがとうございました。

山添　正和様	横山　宏明様	日高　　茂様
小川内幸美様	久恒　仰平様	ほか9人

◆お問い合わせ先◆

高鍋町 政策推進課 財政経営係 TEL：２６－２０１８

「ふるさと納税」

～高鍋町を
あなたの
「ふるさとに」～

ふるさと
高鍋への応援を
お願いします

たか鍋大使くん★

http://www.town.takanabe.miyazaki.jp/policy/hurusato.html

おいしい焼酎は安心 安全な地元産原料で！

宮崎県が開発した飼料用稲「ミナミユタカ」の活用について、当紙平成二十二年三月号で、焼酎用麹としての良好な試験結果を報告しています。

この結果を受け、地元焼酎製造業者が県産焼酎のブランド力向上のため、ミナミユタカを使用しての仕込みを決めました。これを受け、町は、農商連携、コメ生産調整の転作拡充のため、積極推進を決定しました。

今年度、ミナミユタカを栽培した老瀬の古江康宏さんは「転作作物としてこれを作りました。地元産の麹による焼酎のブランド化が進んでくれると嬉しいですね。今後は、長期的に取り組める事業へと拡大することを希望します」と話しました。

産地活性化につながる大きな可能性を秘める「ミナミユタカ」の収穫（９月１０日）

地上デジタルテレビジョン放送局（高鍋中継局）が開局します

このたび、舞鶴公園内に高鍋中継局が完成し、１１月２４日からの試験放送を経て１２月２７日に開局します。

このことについては、国や放送事業者の調査において約２５０世帯が地上デジタル放送難視状況であることが判明したため、放送事業者による中継局建設が決定されたものです。

建設にあたりましては、土地の所有者や地域の皆さんの多大なご協力をいただき、ありがとうございました。

なお、高鍋中継局の受信可能予想範囲は下図のとおりです。

町内小中学校の教育環境整備について①

今年度、町内小中学校で、地域活性化・経済危機対策臨時交付金を活用した防水工事、また、新田原飛行場関連再編関連特別事業を活用した児童・生徒全員分の学校給食用新食器の導入が行われました。

校舎屋根に防水用屋根！

防水工事については、以前からの懸案事項であり、今までは各学校で雨漏りの対応を余儀なくされていました。整備がなされた東中学校の井上陽子先生は「今は雨漏りの心配がないので快適で、生徒たちは授業に集中できています」と笑顔で話していました。

宮越くん

学校給食用新食器の導入について、東小学校４年３組の宮越潤希くんは「お盆の色が明るくなり食器も新しくなったので、気持ちよく給食が食べられます」と話し、おいしそうに給食を食べていました。

取材に行ったこの日、４年３組の皆さんが太陽の下でパラソル給食を楽しんでおり、新食器が一段とキラキラ輝いて見えました。

せいぼサークル ご案内

毎週 木曜日 10時から(子育て支援)

親子で、園庭や教室でいっしょに遊びませんか。
子育てで悩んでいる方の育児相談（無料）をしております。
満２歳より就学前のお子様をお預かりいたします。
保育時間　７：３０～１８：００
（毎日午前中、園庭を解放しています。）

高鍋カトリック聖母幼稚園
場所　まるき屋・ジョイアス横　　電話　23－1500

※この欄は広告です。お問い合わせは、広告主へ。

広告掲載募集のお知らせ

◎広報たかなべ
① ４．５㎝×　９㎝＝１０，０００円
② ４．５㎝×１８㎝＝２０，０００円

◎高鍋町ホームページバナー広告（トップページ）
① ３カ月　１５，０００円
② ６カ月　２７，０００円
③ １２カ月　４８，０００円

※詳しくは、高鍋町ホームページをご覧になるか、政策推進課 情報政策係（TEL：２６－２００３）へ。

《姉妹都市交流》「鷹山塾」に参加

九月二十五日に、米沢市で上杉鷹山公の改革の精神に学び、まちづくりの勉強をすることを目的とした「鷹山塾」が行われ、高鍋町から町職員二人が参加しました。

この前に、米沢市職員が九月上旬に来町し、町内で交流や学習活動を行いました。

鷹山塾に参加した小森さんは「鷹山公の教えが今も息づく米沢の地で各地のまちづくりを知ることができたと同時に、高鍋を改めて見つめ直す貴重な機会を得ました」、金城さんは「鷹山公が縁での自治体の学習や、地域の特色を活かした取り組みを知ることにより、高鍋で生かせる点、努力できる点などに気付かされました」と話し、この参加は今後のまちづくりへの貴重な経験となったようです。

米沢市職員（中央2人）と交流活動を行った高鍋町美術館の小森さん（最右）と税務課の金城さん（最左）

まちの話題

◎高鍋町美術館特別展開催中（十一月二十八日まで）

十月三十日から「東ちづる・前田康成二人展」が開催されています。女優の東さんは、ドイツ国際平和村で知り合った戦争被害者の子どもたちを描いた絵本の作者であり、その原画は、衝撃的な事実を優しいタッチでまとめています。前田さんはテレビアニメ「まんが日本昔ばなし」を長年描き続けており、その原画は懐かしさや癒しを覚えさせてくれます。

まだご覧になっていない方は、どうぞお見逃しなく！

国際平和村での活動で「人生が変わった」と話す東さん。一人ひとり丁寧にサインをする姿はとても素敵でした

◎百歳おめでとう

高鍋町在住のお二人が元気に百歳を迎えました。これからもどうぞお元気で！

宮中スエノさん（もくせい苑）

上野タカ子さん（もくせい苑）

◎シルバーパワーは健在です

十月十五日、シルバーの日を記念して、高鍋町シルバー人材センターが奉仕作業を行いました。剪定班班長の松岡松傳さんは「参加者のうち最高齢者は八十二歳。毎年、この日はみんなで元気に作業をしています」と汗をふきながら笑顔で話してくれました。

中央公園の石井十次像前の草刈りや木の剪定を行う会員の皆さん

◎あなたの居場所があります

野の花館でいろりフォーラム・コンサートが行われました。人とのつながりが希薄となった現代社会で、居心地の良いまちづくりの必要性を感じました。

毎月第3火曜日 午後7時から この場所（野の花館）で誰でも自由に話せる「いろり端会」があります。お気軽に参加してみませんか

◎快挙！努力に脱帽

十月十日、日向市で行われたサーフィンの世界大会で高鍋町在住の東川泰明プロが優勝しました。重みのある大会での優勝に東川プロは「今回は、得意のパワーのある演技ができました。来年秋の世界選手権日本代表枠獲得を目指し、また頑張ります」と抱負を話してくれました。今後のご活躍が楽しみです。

ケガを克服してのタイトル獲得に笑顔の東川プロ

◎先祖の霊を慰め敬う

十月三十一日、古墳祭が行われました。予定では持田古墳群山の神塚古墳前での実施でしたが、雨のため坂本公民館で実施されました。

古代人を描いた絵画の前での神事。高鍋神楽も奉納され会場は厳かな雰囲気に包まれました

◎親子でのふれあいの時間♪

十月三十一日、高鍋町健康づくりセンターで子育て応援フェスティバルが行われ、どのコーナーも親子の楽しい声や笑顔でいっぱいでした。

真剣におもちゃ作りに取り組む子どもたち。奥の部屋では赤ちゃんハイハイ競争も行われました

◎熱心な作業ぶりでした

昨年に引き続き、県立産業技術専門校高鍋校の皆さんが実習のため役場公用車車庫の塗装を行いました。水道課前の車庫がベージュ色に輝いていますので、町民の皆さんも学生さんの丁寧な塗装をご覧になってみませんか。

わが町の宝物

みんな元気に育ってね。

このコーナーは、９・１０カ月児健診に来たお子さんを紹介しています。

今回は、９月・１０月の健診に来た元気なちびっこたちです！

鈴木 大翔 ちゃん

那須 夢音 ちゃん

後藤 直彦 ちゃん

田中 綾乃 ちゃん

宇田 汐里 ちゃん

鬼丸 侑大 ちゃん

黒木 美結 ちゃん

中田 和希 ちゃん

久保田 舞 ちゃん

森 獅音 ちゃん

久保田 新 ちゃん

宮本 優羽 ちゃん

沖田 樹 ちゃん

増田 光稀 ちゃん

齊藤 諒凪 ちゃん

野津手 重尚ちゃん

金山 寧々 ちゃん

友草 清海 ちゃん

竹原 愛翔 ちゃん

角田 優笑 ちゃん

上戸 杏奈 ちゃん

藤原 朝妃 ちゃん

日野 友里加ちゃん

祝田 いろはちゃん

是澤 琉偉 ちゃん

末綱 凛 ちゃん

甲斐 康士朗ちゃん

三輪 眞士 ちゃん

黒木 まりかちゃん

古小路 侑大ちゃん

多田 大翔 ちゃん

伊井 壮佑 ちゃん

出川 万紘 ちゃん

尾野上 怜大ちゃん

脇田 柊真 ちゃん

土屋 瑠偉 ちゃん

TAKANABE TOWN

広報たかなべ 2010. 11. 19 NO. 367

編集・発行／宮崎県高鍋町
〒884－8655 宮崎県児湯郡高鍋町大字上江8437
政策推進課／☎0983－26－2003
http://www.town.takanabe.miyazaki.jp
※「広報たかなべ」は町ホームページでもご覧になれます。

人口と世帯数(11月1日現在・前月比)

人　口	／ 21,652人	(－ 26)
男　性	／ 10,332人	(－ 14)
女　性	／ 11,320人	(－ 12)
世 帯 数	／ 8,966世帯	(－ 5)